

## 境港市校区審議会（第1回）議事録

日 時 平成28年5月10日（火）

場 所 境港市役所 第1会議室

出席者 委員 古都 好治、足立 ひと美、角 徹、山岡 睦美、肥後 功一、岡崎 茂  
白井 靖二、坂井 敏明、徳永 哲郎、岩本 和貴、山根、真樹、永井 高幸  
竹藤 明美、神波 雄一、三瀬 ゆかり

事務局 教育長 佐々木 邦広、局長（兼教育総務課長） 藤川 順一、  
学校教育課長 影本 純、学校教育課長補佐 高濱禎彦、  
学校教育課長補佐 門脇 克美、学校教育課主幹 石田 智文

傍聴者 2人

1 開 会 午後4時

2 委員委嘱

15人に、5月10日付けで委任状を交付。

3 教育委員会あいさつ（佐々木教育長）

本来であれば、教育委員長がご挨拶するところですが、代わってご挨拶をさせていただきます。

5年前に教育長の職に就いた時、学校施設は耐震補強が終わり、屋上には太陽光パネルが設置され、グラウンドには芝生が植えられ、県内でも教育環境が立派に整った頃でした。児童数の減少は全国的な現象で、急激な現象は考えられないと言われていました。ところが、誠道小学校におきまして、昨年大量な転出がありました。私が就任した当時は、100人程度であった児童数が、昨年度は53名、今年は57名となったところです。中でも、2年生・3年生は複式学級ということで、2つの学年をもって1つの学級とするという状態になりました。複式学級だからといって、教育効果が大変低いということではございません。しかし境港市の狭い都市として児童生徒数を考えたときに、複式学級というのはいかがなものかという意見もたくさんあります。

この際、境港市の人口減少を踏まえ、境港市の小中学校の在り方はどうあるべきかを、討議・議論を始めなくてはならないと判断させていただきました。そしてその中で、差し迫った問題として誠道小学校はどうするのか、という考えでございます。一番は子どもたちの教育環境に置かなくてはならない。もう一つは、この小さな境港市の中で、たくさんの学校をこのまま維持していくのかどうか。校舎は耐震補強しましたが、これから体育館やプールの劣化がおこってきます。こうした問題も踏まえながら、わたくしたちの境港市に適した教育環境とはどうあるべきか、ということを各方面から委員さんにお集まりいただきまして議論をしていただきたいと思います。なにとぞ、よろしく願いいたします。

#### 4 委員自己紹介

名簿の順で委員自己紹介。  
事務局各職員の自己紹介。

#### 5 校区審議会について

##### (1) 会長・副会長選出

(事務局) 会長・副会長の選出について、境港市校区審議会条例第4条により「委員の互選による」となっています。選出について、ご意見はありませんか。

(委員) 学識経験者の中からがよい。これまで東出雲町でも関わられ、またニュートラルな立場で差配できる、肥後委員に会長をお願いしたい。また、境港市の学校教育に詳しい足立委員に副会長をお願いしたい。

(事務局) 賛同の方は拍手をお願いします。拍手多数とし、会長は肥後委員、副会長は足立委員と決まりました。会長の挨拶をお願いします。

##### (2) 会長あいさつ

鳥取県内では、大山町にも関わりをもっていた。今は、鳥取県教育委員会の仕事として、幼保小の連携教育について、今年度より関わっている。

今生まれてきた子どもたちが20年たった時を考えたときに、すごく大きな節目を迎える。オリンピックが開かれる頃には、新しい学習指導要領になる。また、その頃には今の大学センター試験がなくなって新しい形になる。大学と高校の接続についても新しい時代に入っていく。新しい教育を受けた高校生を引き受けられる入試をしていない大学は、入試をしてもらえないような仕組みを国が作り始めている。

島根県内でもいくつか議論に加わってきた。「人口減少・児童減少・予算減少、だから学校を1つにまとめます」的な話に感じる方もいるかもしれないが、そうは思っていない。小さい子どもたちが成人になっていくときに、世界がどういう受け入れをしているのか。そこにどんな力をつけていければ、子どもたちが幸せな自分の人生を生きていけるのか。そのために地域の教育は何がしてあげられるのかを考えなくてはならない。

あったものがなくなってしまうという話では、いい議論にならない、子どもたちのためにはならない。そういう気持ちがあっても悪いわけではない。しかし、もっと広い所から、その子たちが大きくなる時にどういう世界があるのかを考える。もちろん、その子たちが地元に対してどういう貢献をするべきか、地元の発展をどう引き継いでいくのかも必要。しかし同時に、彼らが生きていく世界がどういうものであるのか。想像力を欠いた大人が集まるとあまりいい議論にならない。子どもたちが育っていく時代をみんなで考え、議論ができる場所になればいいと考えている。そういう気持ちで皆さんの意見を尊重しながら、司会をさせていただこうと思う。

##### (3) 諮問

教育委員会が会長に諮問書を読み上げ、審議会に諮問。

#### (4) 概要説明

(会 長) 概要の説明をお願いします。

(事務局) 「小中学生の推計人口」「仮定値による将来人口の推計と分析」「年少人口（0～14歳）の推計減少率による、小中学校の推移予想」「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置」「学校の校舎」について説明。

##### ■小中学生の推計人口

国立社会保障・人口問題研究所（社人研という）の算出では、境港市の小・中学生の児童・生徒数は2015（平成27）年と比べ、2060（平成72）年には約40%まで減少する。

##### ■仮定値による将来人口の推計と分析（2015（平成22）年の人口と比較）

社人研による推計値（境港市の平成23年の合計特殊出生率1.55で算出）では、2060（平成72）年の0～14歳の人口比率は38%まで減少する（パターン1とする）。

合計特殊出生率が2020年までは1.80（昭和60年代並み）、2060年までは2.07（昭和40年代並み）まで上昇するとして算出すると、2060（平成72）年の0～14歳の人口比率は68%まで減少する（シミュレーション1とする）。

転出と転入の差がない状態で社人研による推計値で算出すると、2060（平成72）年の0～14歳の人口比率は53%まで減少する（シミュレーション2とする）。

##### ■年少人口（0～14歳）の推計減少率による、小中学校の推移予想

パターン1で考えると、境港市のほとんどの小学校が1学年1学級になり、約45年後には中学校もすべて1学年2学級になる。

シミュレーション1で考えると、約25年後まではほとんどの小学校で1学年2学級維持できる。

現在の小学校就学予定者数及び学校別児童数から考えると、今後6年間は大きな変化はないと考えられる。

各学校の2022（平成34）年までの児童数の推移を考えると、境小学校の予想推移はパターン1より推移が穏やかである。上道小学校の予想推移はパターン1より推移が穏やかである。誠道小学校の予想推移はパターン1より約20人少ない。余子小学校の児童推移はパターン1の推移に近い。中浜小学校の児童推移はシミュレーション1の推移に近い。渡小学校の児童推移は児童数の減少が少ない。外江小学校の推移はパターン1より推移が穏やかである。

##### ■公立小学校・中学校の適正規模・適正配置

文部科学省の通知では、一定の集団規模が確保されていることが望まれると述べられている。また、学校の小規模化に伴う教育上の課題がこれまで以上に顕在化すると述べている。

文部科学省が出した適正規模・適正配置に関する手引きでは、小規模校の良い点として個別指導が行われやすいと述べられている。反面、社会性の育成に制約が生じることをはじめ教育指導上多くの課題があると述べられている。そして、望まし

い学級数として、小学校は同学年に複数教員を配置するために1学年2学級以上としている。中学校は全ての授業で教科担当による学習指導を行ったりするために9学級以上を確保することが望ましいとしている。また、徒歩や自転車による通学距離のおおよその目安として、小学校は4 km以内、中学校は6 km以内としている。

#### ■学校の校舎

文部科学省が出した「学校施設の老朽化対策ビジョンについて（中間発表）」では、「全国的に現在の校舎は、第2次ベビーブーム世代の増加に伴い、昭和40～50年代にかけて建設された。今、施設の老朽化という課題が出てきている。この課題の対象は、未来を未担う子どもたちが日々学び生活する学校である」と述べられている。

境港市の校舎等では、小学校では誠道小学校以外の学校で20年以内に耐用年数を経過する施設がある。特に境小学校の大プールは平成34年、上道小学校の大プールは平成38年に耐用年数を経過する。中学校では、第一中学校の古い校舎が平成34年に耐用年数を経過する。全中学校の武道館、第二中学校の大プールは20年後以内に耐用年数を経過する。

#### (5) 意見交換・質疑応答

(会 長) 質問はありませんか。

(委 員) 児童生徒数や校舎の耐用年数の説明があったが、学校運営協議会などの学校・家庭・地域を取り巻いたような総合教育ビジョンあるいは教育振興計画的なものがあれば参考にしたい。

(事務局) 学校・地域等を一体的にこれからどうするかという振興計画はない。学校と地域と一緒に伸びていくとして、「みんなでならいや、地域の先生」を掲げ、地域の方に学校を支えていただいている。学校運営協議会の形態はとっていない。学校評価委員会は各学校が設置している。市長との間で、教育大綱を定め、将来に向かって適正な学校規模を作っていくという方針が示された。

(委 員) 平成28年3月に「境港市公共施設等総合管理計画」が出来ているか、公共施設・学校施設等は建設後30年で大規模改修、建設60年で工事試算と書いてある。資料の耐用年数とリンクしているか。

(事務局) 資料の方は、国が示した耐用年数も基にして試算をした。これ以外を基にしてはいない。

(事務局) 「境港市公共施設等総合管理計画」は境港市全ての公共施設についての方針を示している。同時に、これからの人口減を考えるとこれが大変難しいということを示している。学校施設だけでなくすべての公共施設が老朽化を同時に迎えることを示している。学校施設を考えるとときには、子どもたちの教育環境、地域との関係という視点で見なくてはいけないと考えている。

(委 員) 夕日ヶ丘で造成しているところで、たくさんの人口流入があつて人が増えていくとか、大規模な計画があつて人口流入が図られるというような計画はないか。

(事務局) 中浜小学校に行っている夕日ヶ丘一丁目と自衛隊の官舎は入れ替わりが激し

いところ。学齢期のお子さんがおられる方が多い。両地域を合わせて、中浜小学校の330人の内の130人が通っている。新しい家が建ってお子さんをお持ちの家庭が多くなって、一度期は増える。2040年まではなんとかもっても、2060年になったら減少に転じると想定しなくてはならない。外浜街道を中心とした市街では子供達の減少が進むと考えている。ヘリコプターの配置によって、部隊が100人くらい来るのではないかという予想がある。その方々がどこに住むかは情報をもっていない。

(委員長) 新興住宅地に住んでいるが、勢いがある時代はいい。しかし、子供が戻ってこず、団地とともに全体が年老いていく。そこが難しいところ。

(委員) 小中一貫校で成果を出している学校とか、いろんな特色ある教育をしている小規模校の実例などが知りたい。

(委員長) 今のご意見について、次回事務局で準備をお願いします。その他に、要望などあったらお願いします。

(委員) 誠道小学校の保護者の方の気持ち・意向のアンケートなどをとっていないのか。保護者の方の想いを知りたい。

(委員) 誠道小学校から家庭にアンケートが配布されている。23日(月)にPTA執行会が予定されている。そこで、アンケートを出してもらい、それを中心に話があると聞いている。教育委員会からも、どなたか来ると聞いている。

(事務局) 私(教育長)が行くことにしている。

(委員長) 誠道小学校を語る会について、事務局から情報を共有させてほしい。

(事務局) 昨年度2回行った。複式学級の可能性が出てきたということで、保護者の方がどのように考えているかを、4月下旬ともう一回行った。1回目は誠道小学校体育館で行い、教育委員会としてはニュートラルなスタンスで行った。しかし、教育委員会は総合ありきではないかというご意見が多かった。また、地域からなくして欲しくないという意見が多く見られた。その中で、このことは誠道小学校ばかりの課題ではないという話があり、幅広く案内をして第2回を行った。各小学校のPTA執行部にも案内し、会場は第二中学校で行い、その中で小規模校のメリット・デメリットについて提示をした。誠道小学校の児童数についても提示をし、ご意見を伺った。そして、誠道小学校をどうするかについては、校区審議会を開き、その中で審議するという事をお伝えした。

(委員長) 今日の諮問の順番が大事だと思っている。1番目は、将来の児童生徒数減少に対応した小中学校編成の方向について。これは全体の話である。2番目として誠道小学校の名前が具体的に上がってきている。おそらく、廃止ありきとか統合ありきという話ではなく、全体のプランをまずどう考えるかをちゃんとやりましょうという話であると理解しておく必要がある。先ほどの出たように、現在のユーザーを無視することはできない。尊重しなくてはならないというのは言うまでもない。今話があったように、10年20年の話なので、未来のユーザーにとってどうあるべきなのかという議論を最初に大きく

していきましようということ。

## 6 議事

- ・第2回は6月16日（木）、第3回は7月8日（金）、時間は16時と決定。
- ・第2回の内容は、「境港市立学校の現状と将来的課題と小・中学校の編成上の方向」「小中一貫教育の可能性について」の2点と決定。

## 7 その他

（事務局） 先ほどありましたが、その他何か要望はないですか。

（委員） 先ほど通学距離の目安の話があったが、夕日ヶ丘から小学校までの距離はどれだけあるか。

（事務局） 詳しい数値を次回お伝えします。

（委員） 資料にある境港市の総合戦略の中にある子育て環境作りに関するもので、落とし込んだものを見せていただきたい。

（委員） 境港市の待機児童はどれくらいか。

（事務局） 境港市には待機児童はない。

（委員） 県外からの里帰り出産があると聞いているが、境港市には受け入れがないと聞いた。

（事務局） 子育ての方に確認する。

（委員長） 潜在的な待機児童がいるという話がある。実際には子供を預けたい人もいるかもしれない。整えば、もう一人二人生めるのにと話があるのかもしれない。子育て課と連携して、少し未来の人口に対する施策を総合的に説明してほしい。

（委員） 2010年からのデータはあるが、もう少し前の児童数が減少している状態も見たい。それと、その原因。所帯数が減ったのか、子供が出て行ったのか。その辺りの関係はどうなっているのか。

（委員長） 年少人口だけが減ることはあまりない。世帯とか家庭とか、そのものの人口流出がバックにあるかないか。ここまでの状態を含めたデータをグラフにすると分かりやすい。次回、お願いする。

## 8 閉会

（事務局） 第2回までに資料を用意する。

（委員長） できれば資料を事前に送ってほしい。そうすれば、意見もたくさんいただける。

（事務局） それでは、第1回の審議会を終わります。

閉会 17時27分